



IAF活動報告

公益財団法人 日本適合性認定協会
認定センター

報告項目

- IAFの活動
- MLA(相互承認 Multilateral Recognition Arrangement)
- 2015 IAF総会報告～総会、TC(技術委員会)

IAF (International Accreditation Forum)

- 1993年発足
- 適合性評価を認定する機関および関係機関の国際組織
- マネジメントシステム認証、製品認証、要員認証、GHG妥当性確認/検証等の分野を取り扱う。
- 目的
 - 業務にふさわしい能力を持ち、利害の抵触がない認証機関のみを認定する。
 - 認定機関間の技術的レベルを整合し、相互承認(MLA)を行う。

IAFメンバー

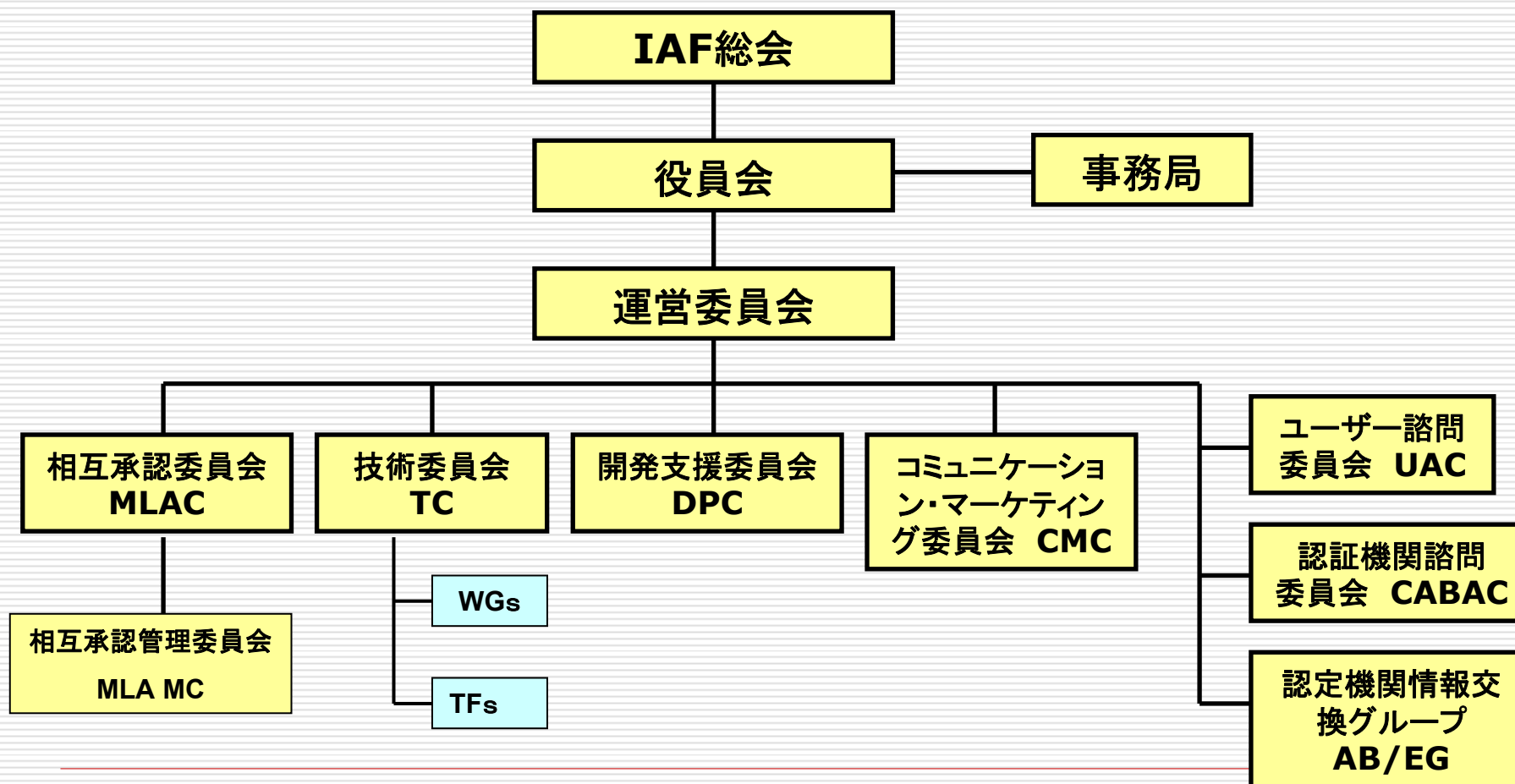
- 6地域グループ
 - AFRAC(アフリカ)、ARAC(アラブ諸国)、IAAC(南北アメリカ)、EA(ヨーロッパ)、PAC(太平洋地域)、SADCA(南アフリカ)

- 認定機関メンバー
 - 74機関。うち62機関がMLAメンバー
 - 新規加入:ベラルーシ、北朝鮮、マケドニア、モロッコ

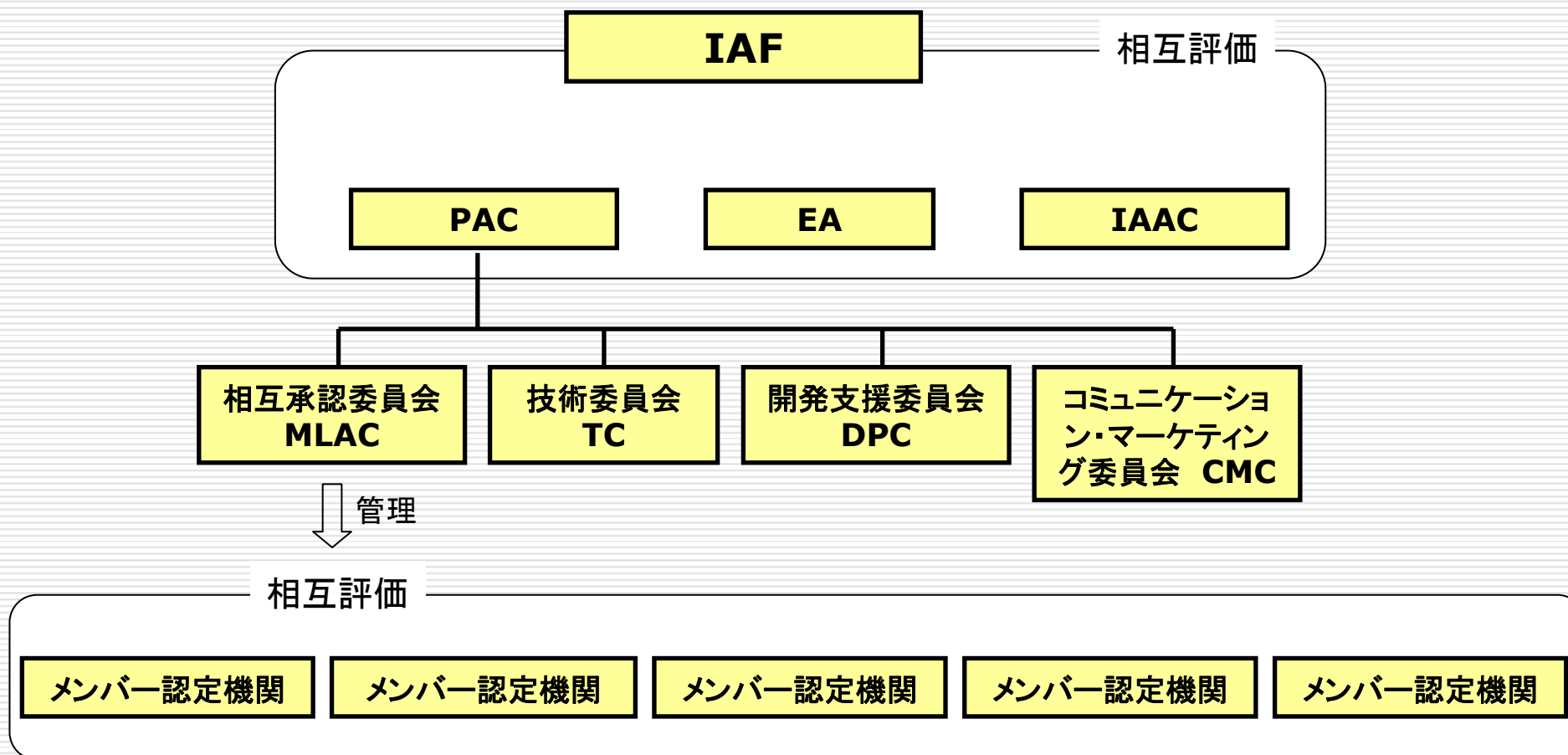
- 関連団体メンバー
 - 18機関。認証機関、産業団体、スキームオーナー等

- 協力関係: ISO、ILAC(国際試験所認定協力機構)など

IAFの組織構造



IAF及び地域グループによる相互承認の管理



MLA (相互承認 Multilateral Recognition Arrangement) ～5層の区分

レベル1	認定機関に対する要件: ISO/IEC 17011 及び IAF 指針	● 認定業務が、互いに同等 ● Peer Evaluation で評価
レベル2	認定活動の種類: 認証機関 (MS、製品、要員)、検査機関など	
レベル3 メインスコープ	適合性評価機関に対する要件: ISO/IEC 17021-1 (MS)、ISO/IEC 17065 (製品)、ISO/IEC 17020 (検査)、ISO/IEC 17021 (MS)、ISO/IEC 17024 (要員) など	● 認証機関としての能力が同等に信頼できる
レベル4 サブスコープ	分野特有の規格: ISO/IEC 27006 (ISMS), ISO/TS 22003 (FSMS) など	
レベル5 サブスコープ	適合性審査に用いられる規格: ISO 9001, ISO 14001, ISO 13485, ISO 22000, ISO/IEC 27001, 製品規格 (Global Gap 等) など	● 認証が同等である

IAF MLAの範囲

	認証のタイプ			
	マネジメントシステム	製品	要員	GHG
メインスコープ (レベル3)	ISO/IEC 17021-1	ISO/IEC 17065	ISO/IEC 17024	ISO 14065
サブスコープ (レベル5)	ISO 9001 ISO 14001 ISO 22000 ISO/IEC 27001 ISO 13485	Global G.A.P.		

IAF総会(2015年)での主な決議事項

□ IAF MLA 範囲の拡大:

■ PAC

□ FSMS, ISMS

□ Global G.A.P.

■ EA, IAAC

□ Global G.A.P.

→ JABのIAF MLA範囲が、FSMS, ISMSに拡大

PAC: Pacific Accreditation Cooperation

EA: European Cooperation for Accreditation

IAAC: Inter American Accreditation Cooperation

PAC MLA



	MLA調印済み	評価中	申請受理
QMS	18 (JAB:1998/1/24)	1	-
EMS	16 (JAB:2003/11/27)	1	-
FSMS	11 (JAB:2014/6/26)	1	1
ISMS	3 (JAB:2014/6/26)	1	1
製品	18 (JAB:2010/10/24)	1	-
Global GAP(製品)	5	0	-
要員	-	3	1
GHG	5 (JAB:2014/1/24)	-	1

IAF総会での主な決議事項

- ISO/IEC 27006:2015への認定の移行
 - 2011年版からの認定の移行期限を2年間とする(2017年9月30日まで)。

- ISO 13485:2013改定に伴う認証の移行
 - 認証の移行期限を改訂版発行後、3年とする。

IAF総会での主な決議事項

- マネジメントシステム認証機関が認定を受けている範囲で行う非認定認証
 - IAFメンバー認定機関は、認定した認証機関と法的に拘束力のある取り決めを持ち、認証機関が認定されている範囲で非認定のマネジメントシステム認証を発行することを防がなければならない。
 - 移行期間を1年間とする(2016年11月5日まで)

IAF総会での議論

- 認定を受けたマネジメントシステム認証のデータベース
 - ISOでのデータベース作成計画が中止
 - TFを作り、データベースで達成すべき原則を議論
 - IAFメンバーの認定を受けた認証機関によるMS認証
 - 認定機関、認証機関、認証組織に関する正確な情報を提供
 - IAF、認定機関、認証機関の責任
 - 不適切なデータ利用を防ぐように管理する必要
-

IAF TC (技術委員会)

□ 活動

- IAF文書の開発/維持/改訂を行う。適合性審査を一貫性のあるものにするを目的
- 必要なIAF文書を開発するために、関連する利害関係者のグループを形成する
- IAF外での認定規格やその他類似文書の開発をモニターし、IAFとして考慮あるいは開発に参加するかどうかを決める
- IAF相互承認の運用から生じた問題を含め、IAF文書の適用に関する推奨を行う

□ 年2回開催

- 総会開催時およびTC会議のみ
- タスクフォース/ワーキンググループ会議および全体会議

主なタスクフォース(TF)/ワーキンググループ(WG)

- WG
 - マネジメントシステム認証(ISO/IEC 17021)
 - 製品認証(ISO/IEC 17065)
 - 要員認証 (ISO/IEC 17024)
 - 森林認証
 - ISMS (ISO/IEC 27001)
 - ITSMS (ISO/IEC 20000)
 - ISO13485(医療機器QMS)
 - 食品
 - GHG及びエネルギー
 - 認定機関の一致

主なタスクフォース(TF)/ワーキンググループ(WG)

- TF
 - サンプルングが適用されない複数サイト認証
 - 認定審査員の力量
 - 認定審査工数を決定する原則
 - 認定を受けた認証機関に代わり運用を行う組織
 - セクター固有の認証プログラム
 - 偽認証
 - OHSAS18001からISO 45001への移行

TCでの主な議論: IAF文書の見直し

- IAF文書の見直しを進行中
 - 次の文書の改定を決定
 - MD2(認証の移転)
 - これまでの運用で見出された問題点に対応
 - MD4(CAAT)
 - 最新技術を考慮
 - 今後見直し
 - MD1(複数サイトサンプリング), MD8/9(医療機器QMS), MD13(ISMS), MD16(FSMS)など

 - MD3(ASRP), MD5(QMS/EMS審査工数), MD10(力量の審査), MD11(統合審査) - 改定しない
-

TCでの主な議論：製品認証WG

- ISO/IEC 17065:2012への移行期間が終了に伴い、IAF GD5(JAB P300)廃止
 - 後継文書(ISO/IEC 17065適用のための文書)の必要性を議論

 - MD2(認証の移転)、MD4(CAAT)を製品認証に適用するかどうかを今後議論する
-

TCでの主な議論：GHG及びエネルギーWG

- IAF MD6(JAB GR300)の見直し
 - ISO 14065改定に伴う見直しが必要となる可能性あり

 - エネルギーマネジメントシステム認証のMLAに向けて
 - IAF文書開発の必要性を議論
 - 認定範囲分類および立会いの考え方-必要
 - 認定機関の要員の力量- 未定
-

TCでの主な議論：食品に関するWG

- ISO 22000の期待される成果(Expected Outcome)の最終案を作成
 - ISO/CASCOへ送付予定
 - ISO 22000改定
 - 来年はじめにCD回付
 - 認証の移行について検討するTFを結成予定
 - 食品安全強化法(FSMA: Food Safety Modernization Act)
 - 次回会合でFDAを招き、概要説明を依頼する予定
-

TCでの主な議論:

OHSAS18001からISO 45001への移行

- OHSAS18001からISO 45001への認証の移行に関するガイドライン
 - OHSASプロジェクトグループにより作成中
 - IAF基準文書の作成を予定
 - OHSAS認証からISO45001認証への移行に関し、認定の有無に応じたシナリオ
-